サークル楽しみ隊

# 仲間、礼儀大切にし楽しむ

## フットボールクラブ（FC）北条

メンバーは約60人。北条、小田、筑波、田水山、田井、作岡などの小学校から参集

創設はJリーグ開幕翌年の1994年。昨年は20周年の節目として、OB会に約100人が駆けつけ盛大に祝った。現在、鹿島アントラーズつくばジュニアユースのフォワード（FW）として活躍する杉山眞仁くんもOB。昨季は中学1年ながら飛び級でU−14日本代表候補に選ばれた逸材だ。

クラブの指導方針は、心技体のいずれもおろそかにせず、個性を生かしつつ伸ばしていく。「例えば足が遅くても、ポジショニングや緩急の付け方、動き出しの早さなどでカバーできる。逆に足が速くても、技術がおろそかでは後で伸び悩んでしまう。その子の5〜10年先を想像しながら指導する。今はぽっちゃりした体型でも、サッカーを続けていれば必ずスリムになり、足も速くなる。だからダイエットなど考えず、ご飯はしっかり食べること」と総監督の堀田正俊さん。

公式戦では県大会の常連。過去には中村杯ベスト8に進出

まずはサッカーを楽しんで好きになること。そして礼儀を大切にし、仲間を大切にする。「仲間のミスは自分が助け、自分のミスは仲間が助けてくれる。サッカーは得点した人が注目されがちだが、その二つ、三つ前のプレーを見ると、仲間がチャンスを作り、ボールをつないでいる。失点のときも、ミスはもっと前から始まっていて、そのどこかで止められれば良かった。だから勝ってもだれかをヒーローにせず、負けてもだれかを責めない」

夏にはメンバーや保護者の親睦を兼ね山登りをする。宝篋（ほうきょう）山や筑波山が近いので、その恩恵を満喫している。（池田光雄）

◆練習は毎週日曜と第2・4土曜の午前9時〜午後5時（学年により時間帯は異なる）、つくば市立北条小学校グラウンドで。月会費は1〜2年1000円、3〜6年1500円。詳しくはブログ「Welcome to FC北条」で。問い合わせは長田ヘッドコーチ（メールfchojoosada@yahoo.co.jp）まで。

## 的当てゲームに子どもら大喜び

### 土浦、上大津公民館

子どもたちを対象とした的当てゲームや映画を楽しむイベントがこのほど、土浦市手野町の上大津公民館で行われ、楽しい時間を過ごした。毎年恒例で五中地区市民委員会青少年育成部が主催した。

五中地区の子どもたち計46人が集まった。NPO法人エコレンによる廃ガラスアートの制作や的にボールを投げたり、魚つりゲームで点数を集めて景品のお菓子をもらって大喜びだった。

的当てゲームを楽しむ子ども＝土浦市手野町の上大津公民館

映画はアニメ「ヒックとドラゴン2」を鑑賞。市社会福祉協議会上大津支部「かすみ会」によるポップコーンや焼きそば、かき氷の提供もあっておいしく味わった。

同育成部長の飯田純さん（52）は「子どもたちの楽しそうな笑顔を見られてよかった」と話していた。（谷島英里子）

ペンでつながる心のタスキ

## 子どもたち野球やろう

杉田　健人

中学から野球漬けの毎日だった。今では、一線を退いたが、土浦市民野球大会にだけ参加する草野球チーム「火拳」（ひけん）のメンバーとして、夏のこの時季を楽しみにしている。

土浦四中で野球を学び、東洋大牛久高校で1年からベンチ入り。当時は先輩らの力もあり、夏の県大会でベスト4まで進んだ。3年は早い段階で負けてしまったが、大学進学後も野球サークルで無双の活躍をしたと自負している。

火拳は土浦四中の同級生や、高校で知り合った野球友達と一緒に3年前に結成。運もあって、昨年は土浦市民野球大会で優勝することができた。今年は、3回戦で土浦市消防本部に惜敗。火だけに消防士さんには弱かった（笑）。

野球だけにとどまらず、飲みやマージャンなどの遊びでも、旧友同士だと格別だ。例えば、雨で試合が中止になってしまった時などにダラダラするのは、中学時代に帰ったような気持ちになる。

野球にまつわる思い出は数え切れないくらいある。ホームランや優勝も経験したし、サヨナラ負けもあった。最近は趣味の多様化で野球の人口が減っていると聞いているが、もっと子どもたちに野球をやってほしい。

（土浦市、永遠の野球好き）

※山本一暁記者からタスキを託されました。

「ペンでつながる　心のタスキ」では読者のみなさんのご意見、ご感想を募集しています。また、ぜひこの人にタスキをという推薦も募集しています。あて先は常陽新聞編集部　FAX029−869−9836
メールdesk@joyonews.jpまで

スダックスの「かんたんIT&スマホ解説」▽81△

須田　仁之

# 音楽コラボアプリ「nana」がオフラインイベント開催！

nana（ナナ）は、ユーザーがスマホで録音した音声や演奏に、他のユーザーがさらに音を重ねて音楽のコラボレーションを実現するスマートフォンアプリです。iPhoneとマイクさえあればだれでも簡単に自分の音楽を投稿することができ、10代を中心に利用者が増えてきています。例えば、あるユーザーがピアノの演奏をアプリ上にアップすると、それを見た他のユーザーは、その演奏にドラムやギター、歌声などを重ねて、コラボレーションさせた音楽を作っていきます。

2015年6月時点では累計ダウンロードが100万件にもうすぐ到達する状況で、サービス開始から右肩上がりで利用者を増やしています。利用者層はなんと18歳以下が約70％となっており、若年層を中心とした密なコミュニティが形成されているようです。若年層が利用者の大半を占めている理由としては、10代だとまだパソコンを所有していない人も多いので、スマートフォンから簡単に投稿できる点が利用するきっかけにつながっているようです。

昨年末には、ユーザー参加型の音楽番組「nanaキャス」を放送開始。ここではカバー曲の演奏やオリジナル楽曲の制作といったリアルな場でのコラボレーションを行っています。

そんなナナが8月23日、品川プリンスステラボールで、ユーザー参加型イベント「みんなでつくる音楽祭nanaフェス」を開催しました。3回目となる開催で、1000人以上の利用者が参加する大きなイベントとなりました。ユーザーによるパフォーマンスライブをはじめとして、セッション・カラオケ・音楽ゲームなどが体験できるブースが複数出展されました。最後にはカラオケアーティストによるライブも催され、終始盛り上がりをみせていました。

代表の文原明臣氏が掲げる「音楽で人と人をつなげる」というビジョンに向かって、オンラインでのコミュニケーションだけでなく、このようなオフラインのイベントも含め、ナナは今後もたくさんのチャレンジをしていくようなので、今後も注目していきましょう。（IT企業勤務）